

DATA FILE



単斜晶系

名前	MALACHITE (マラカイト) / 孔雀石
化学組成	$\text{Cu}_2(\text{CO}_3)(\text{OH})_2$
色	緑色
光沢	ダイヤモンド光沢、絹糸光沢、土状光沢
蛍光	なし
条痕	緑色
劈開	完全
断面	貝殻状、凹凸状
硬度	3.5 ~ 4
比重	4.0

孔雀石 MALACHITE

ダイヤモンド光沢や絹糸光沢を持つが、大きな塊であらわれたものは鈍い土状光沢を示す。

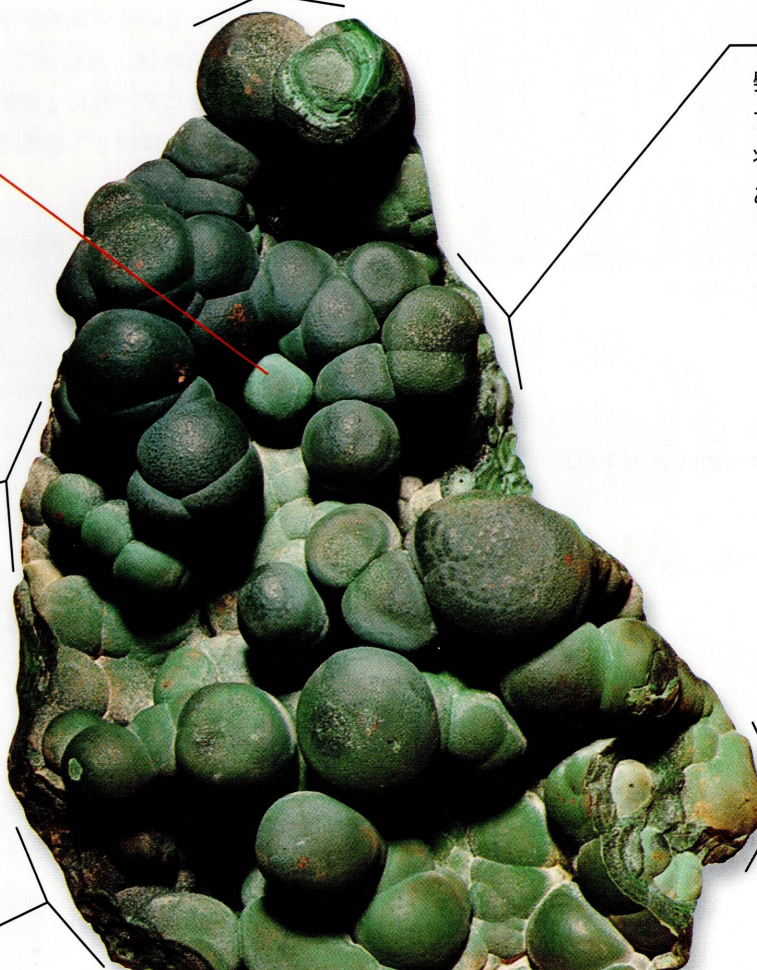
ブドウ状の集塊で産出した孔雀石。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと貝殻状や凹凸状の断口があらわれる。

藍銅鉱、赤銅鉱、石英、珪孔雀石、白鉛鉱などと共生する。

針状や放射状の微細な結晶がブドウ状の塊などで生成することが多く、結晶形が明らかに見えるものは珍しい。

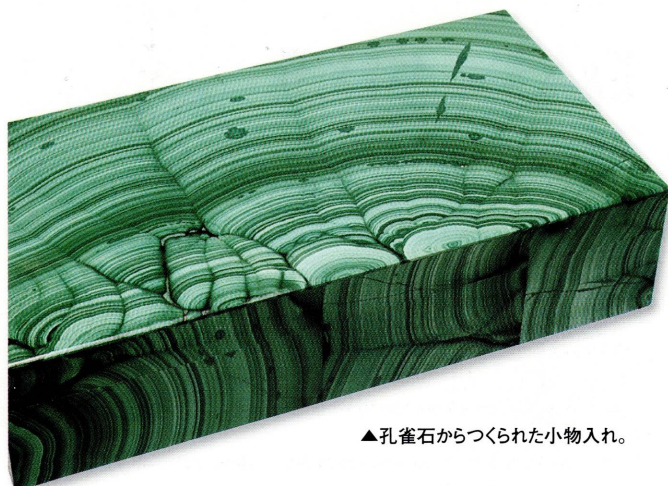
素焼きの陶板にこすりつけると緑色の条痕が残る。



孔雀石

由来の違う和名と英名

孔雀石の多くは、微細な結晶がブドウ状や塊状の集合体になってあらわれる。その断面に見られる薄緑色と黒緑色の縞模様は、異なる時期に形成された結晶が層になったものであり、規則的な曲線や波線を描く美しいものは、鑑賞用の宝石に加工される。このような外観が孔雀の羽のように見えることから名づけられた和名に対し、英名の「マラカイト」は「孔雀」を意味せず、色がよく似ているアオイ科植物を示すギリシャ語を由来としている。



▲孔雀石からつくられた小物入れ。



▲褐鉄鉱の母岩に生成した孔雀石の繊維状集合体。イタリア産。

▶カボション・カットが施された孔雀石。



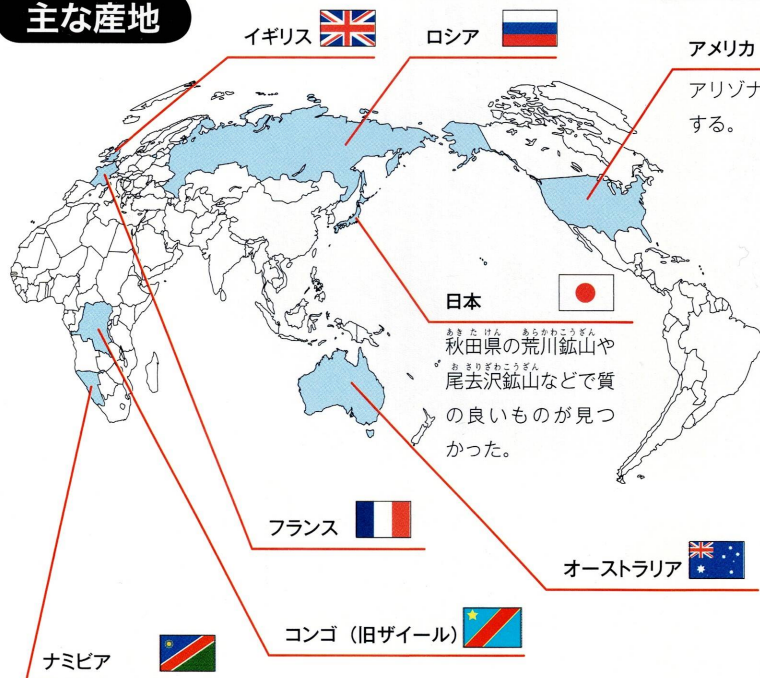
銅鉱石の目印

かつて孔雀石は銅の原料とされていたが、採掘による急速な資源の減少で、鉱石としての需要は少なくなった。しかし、銅鉱床の上部に生成する孔雀石は特有の緑色が目立つために、いわば探鉱のガイド役として、ほかの銅鉱石採掘に役立っている。鉱物採集の際、孔雀石の見られる場所では、藍銅鉱や赤銅鉱などをともなっている可能性があるので目印にすると良い。なお、孔雀石の表面についた汚れは、蒸留水で洗い流し、それでも取れない場合は、蒸留水で薄めたアンモニア溶液に1時間ほどつけた後、蒸留水に数時間入れ、最後にメチルアルコールに浸して乾燥させるという方法をとる。

緑色の顔料

孔雀石には「古代エジプトの女王クレオパトラがアイシャドウに用いた」というエピソードがある。ほかにも、古くから世界各地で顔料として利用され、日本では孔雀石からできた岩絵の具を「緑青」と呼んで日本画の修復などに使用してきた。ただし、天然の緑青はとても高価であるため、現在では人工的につくられたものも多い。

主な産地



▶孔雀石がはめ込まれた銀の装飾品。



▶独特の縞模様があらわれた孔雀石の断面図。